

■ 近代ジャーナリストの草分け

狩野 旭峰

かのう きよくほう

出身地 大館市

1832年（天保3年）～1925年（大正14年）

遐迹新聞初代編集長、主幹。明治初期の秋田言論文芸界をリード。秋田県史編纂主任として、郷土史の研究に当たる。その後、酔経学舎学長となり、私学教育に尽力。文芸誌『棣華』を創刊、秋田漢学派の掉尾を飾る。



年譜

- 1832年 おおだて 大館市に生まれる。通称・徳蔵、本名・良貴。
- 1849年 しおのやとういん こ が きんどう きゅうけいがくしゃ 上京。塩谷宕陰、古賀謹堂の久敬学舎に学ぶ。
- 1874年 かじ 遐迹新聞初代編集長。のち主幹。
- 1884年 おが し 『雄鹿名勝誌』を刊行。
- 1889年 さきがけしんぼう 秋田魁新報に復帰。県史編纂主任。
- 1890年 ぼしんでわ 『戊辰出羽戦記』を刊行。
- 1893年 しゅうはんおん こ 『秋藩温故談』を刊行。
- 1894年 すいけいがくしゃ よくねん ぶんげいし ていか 酔経学舎学長。翌年、文芸誌『棣華』を刊行。
- 1896年 せんゆうぶんへん 『先憂文編』を刊行。
- 1925年 ぼつ さい 秋田市で没。93歳。